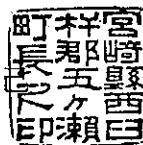


平成19年5月8日
五建発第113-2号

国土交通省道路局長 殿

五ヶ瀬町長 飯干 辰



中期的な計画の作成にあたっての意見について (回答)

平成19年4月2日付け国道企第114号にて依頼のありました標記の件について、別紙のとおり回答いたします。

【文書取扱】

五ヶ瀬町 環境建設課
TEL0982-82-1713
FAX0982-82-1724

中期的な計画作成にあたっての意見

(2007/05/08 宮崎県五ヶ瀬町長 飯干辰己)

■ 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

私たちは地域づくりを進めるうえでインフラ整備ありきで取り組んだことは一度たりともない。インフラ整備は地域づくりを進めるうえで生まれてくる課題であり、手段ではあってもあくまで目的ではない。

したがって、道路整備には地域づくりの延長線上の必然性が必要である。それも極端な言い方をすれば、万人が認める必然性が。それこそがまさに「真に必要な道路整備」であると私は考える。

我町での一例をあげる。本年3月、地域づくり総務大臣表彰を受賞した「夕日の里づくり推進会議」がある。桑野内（くわのうち）地区206戸の住民が、10年以上前から都市と農村との交流事業、所謂グリーン・ツーリズム事業に取り組んできた。域内を通る道路は県道「竹田～五ヶ瀬」線のみ。町内で最も整備が遅れていた路線である。しかし、住民は「開発しない開発」「開発しなければならぬのは、人の意識」という考えのもと、ソフト面の充実を重視し都市との交流による事業を展開した。沿道の草切り作業も自分達の手で、年2回全戸が出て沿線25kmの作業に汗を流す。訪れる人々を気持ちよく迎え入れたいとの思いから始まって10年が経つ。結果、今では県内外から視察が相次ぎ地域づくりの五ヶ瀬モデルと言われるまでになった。地域住民の取り組みに呼応して道路整備が現在進んでいる。住民が求めた訳ではないが行政としてインフラ整備の必然性が生まれた証であると私たちは考える。

安部総理が唱えられる「地方の活性化なくして、国の活性化なし」との言葉、地方を預かる立場の者として全く同感である。私たちは決して「あれもこれも」とは言わない。まして、地域住民も自分達の役割分担は心得ている。私たちは今日のように行財政改革が声高に叫ばれるずっと以前から住民との協働によるまちづくりを進めてきたと自負している。重ねて申し上げたい。頑張っている地方（とりわけ地域住民）のインセンティブが損なわれるようなことは断じてあってはならない。地方が自信を持って主張する道路整備こそが優先度の高いインフラ政策と考える。

■ 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

あくまでインフラ整備を地域づくりの手段として考えるならば、地域が最終的にどのような地域づくりビジョンを描いているかが最大ポイントとなる。ビジョン達成の為の手段(手法)は様々あるものとする。

旧来からの道路整備要望が果たして時代に即応した現実性があるものか、あるいは軽微な改良等として地域によっては大きな効果をもたらす箇所もあるであろう。事業の効率化を進める上では、今回のように地方の生の声を徹底して聴く

中で、地方の側も自分達の地域づくりビジョンを明確に打ち出し、道路整備のあり様をしっかりと語ることが肝要であると心得る。さすれば自ずと贅肉は殺ぎ落とされた必要不可欠な施策が生まれてくるものと確信する。

■ その他、全般的意見

今回、思い浮かぶまま日頃考えている事柄をフリーに述べさせていただいた。思いつくまま記した関係上、脈絡のない文章になっていることをお詫びしたい。

最後に、地方に住む者は現状を悲観してばかりいる訳では決してない。町全体で思い描いた夢に向かって、自分達で出来ることは誰に頼るでもなく懸命に汗を流し、明るくそして元気に走り続けているのである。このことだけでもご理解いただければ幸いである。